



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 3033番
7140番
編集兼
発行人 境 孜

前進の道を固めて

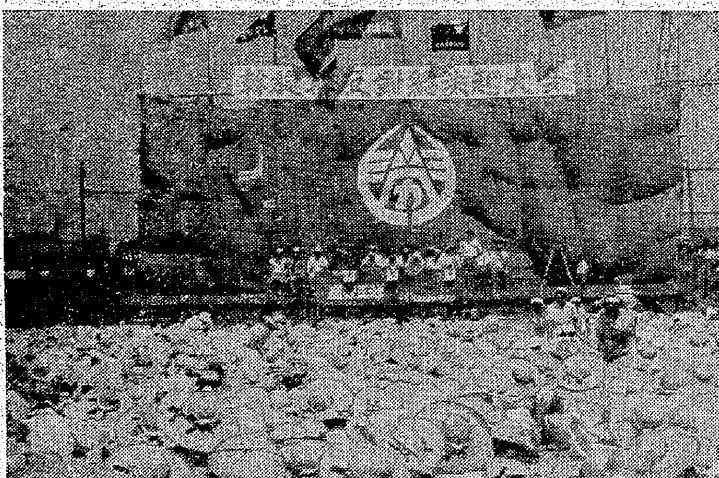
総評第十七回大会終る

事実上、日本の労働者を代表する総評大会にふさわしく、国内外からの代表者二十数名が参加された。そのメンバーには「安保と三池」の両面が例えなく表裏をなす、いさゝか異色な、世界中の労働者からの連帯と友情の大きな三池の労働者の立場から語られた。

主な論議と決定はこうだ

五日間にわたる討論と決定された方針は、極めて多岐にわたるが、その主なものは次のとおりである。

1、労働運動の基調
運動方針の根本部分については、全労連の修正案が採択された。この修正案は、労働運動の基調として、原案の「大衆的・民主的・平和的・生活向上的」の四原則に、(四三三三)の四原則を加え、(四六三三三)の五原則とした。また、労働運動の基調として、(四六三三三)の五原則とした。



あつせん案拒否の決意がみなぎった

卑劣な切崩しをはねのけ労働者の正しさと団結を守ろう。

2、反合理化・最賃制のたたかい
最低賃金制については、失業対策・完全雇用・反合理化闘争との関連をもつた法制化のたたかいを重視し、下請工や臨時工の組織化を通じて推進されるべきである。また、長期の闘争を組織し、(四六三三三)の五原則とした。

みいけ日誌	
8月15日	熊本刑事一部、熊本刑事二部(共に17日まで)
17日	福岡地労委、大牟田市中国訪問団(労働会館で、炭労臨時大会(18日まで)
18日	企画会議、本部役員会、教育委員会、火の国青年婦人集会(常尾市府本で)
19日	企画会議、職対=総合相談所開演

中労委あつせん案の提示にたいして、炭労は十五、六日に中労委をひらき態度を決定し、十八、九日にわたって大会をひらくこととなった。

三池では労働組合の指導者あつせん案拒否の態度を堅持し、十六日は三十名の代表者が出席し、十七日は午前十時からあつせん案拒否の決意をひらいた。

あつせん案拒否の決意がみなぎった。炭労中央では労働部・中労委と主権がつかないが、あつせん案拒否の決意は会場にみなぎった。炭労・総評にたいするあつせん案拒否の要請文が満場一致で決定され、中心の動きを注視することとなった。

あつせん案拒否の決意がみなぎった。炭労中央では労働部・中労委と主権がつかないが、あつせん案拒否の決意は会場にみなぎった。炭労・総評にたいするあつせん案拒否の要請文が満場一致で決定され、中心の動きを注視することとなった。

あつせん案拒否の決意がみなぎった。炭労中央では労働部・中労委と主権がつかないが、あつせん案拒否の決意は会場にみなぎった。炭労・総評にたいするあつせん案拒否の要請文が満場一致で決定され、中心の動きを注視することとなった。

われわれは、三池・安保の歴史的闘争に示された労働者階級の統一と団結の力をあらためて確認した。

このたたかいは日本の労働者階級に大きな教訓を与えているが、階級的連帯のスクラムを一層強大にしなければならぬ。

総評大会のまとめ

大会宣言の要旨

われわれは、池田内閣が押し進めようとしている高度経済成長政策が、現在、過剰投資と諸物価値上りという二つの面で国民の生活を圧迫し、とりわけ労働者階級にたいしては激しい「合理化」と「賃下」に示されているとおりである。

この重大な事態にたいして、われわれは勝利をたらしめるために、全労働者階級の統一と団結を、憲法改悪・核武装に代表される政治反動化と軍国主義復活のための諸政策の中核にたたかっていることを宣言する。

前途を信じ闘おう

神奈川地評(三三三支部) 佐藤 繁 夫

闘いにつける仲間を皆さんにまじり、中労委あつせん案拒否の決意をひらき、十八、九日にわたって大会をひらくこととなった。



あつせん案拒否の決意がみなぎった。炭労中央では労働部・中労委と主権がつかないが、あつせん案拒否の決意は会場にみなぎった。炭労・総評にたいするあつせん案拒否の要請文が満場一致で決定され、中心の動きを注視することとなった。